

広がり、染みこんで行く。
全神経を口に集中させながら、その味を一
つとして取りこぼさないように、味わい尽く
す。
果肉が味を放出しながら、喉を通っていく。
喉でも味わうのだ。酸味が喉を快く刺激した
後に、甘みが奥の方に広がる。その甘さは口
の中で感じられたものよりも更に深い。そし
て、ゆっくりと喉を通過していく。ひんやり
とした感触がわずかの間続き、消える。喉だ
って味わうことを欲しているのだ。味を感じ
ることの出来た喉の喜びが伝わってくる。
食した後、私の体は食材を通して、太陽と
大地からパワーを貰ったことを深く感知する
その後、湧き出てくるのは、自然に対する敬
意と感謝だ。この感謝は、誰かに「感謝しな
きゃ。」などと言われて、そうかなと思いな
がらする感謝などとは全く違う。体の底から
湧いてくる感謝である。
私が今日いただいた食材はミニトマト。多

くの人が何の関心も感動もなく毎日食べている食材だ。決して、高いトマトでも何でもない。しかし、本当に敬意を持って食べれば、その味は何と豊かなことか。